

2015年度特別研究期間 研究成果概要

所属・職・氏名： 神学部・教授・神田 健次
研究課題：エキュメニカル運動の歴史と課題
研究期間：2015年4月1日～2016年3月31日

研究成果概要

特別研究期間においては、「エキュメニカル運動における歴史と課題」という研究主題を掲げて研究を進めてきた。20世紀以降の世界のキリスト教の指標は、「エキュメニカル」と呼んでも過言ではないが、その始まりは、1910年にエディンバラで開催された世界宣教会議に求められる。その後、1948年にはアムステルダムにおいて世界教会協議会(WCC)が成立し、さらに60年代初頭にはカトリック教会の歴史的な第二バチカン公会議によって世界のキリスト教界は大きく歩み寄り、多彩な一致と協力の取り組みが展開されてきた。その展開の広がりには、キリスト教諸教派内にとどまらず、宗教間の対話と共生をも内包しているのである。エキュメニカル運動のそのような今日にいたるまでの歴史と包括的な課題について、著書としてまとめるために調査と研究を推進してきた。

調査研究としては、国内に留まらず海外の大学や研究機関にまで及び、特に8月から9月にかけてヨーロッパへ調査研究の旅を行った。ドイツの研究機関として、ハイデルベルク大学神学部図書館、ミュンヘン大学神学部図書館、またスイスの研究機関として、ベルン大学神学部図書館、ジュネーブ大学図書館、世界教会協議会(WCC)の資料編纂室、同エキュメニカル研究所を訪れた。そしてイタリアの研究機関として、グレゴリアン大学図書館(ローマ)、宗教改革期のカトリック改革に関わったイタリアのトレント、また同じくカトリック改革を推進したイエズス会、特にザビエルの足跡を中心とした教会や修道院、博物館などを訪問し、以下のような調査研究を行った。

- (1) ミュンヘン大学やベルン大学の神学部図書館、またローマのグレゴリアン大学図書館において、研究主題に関連した資料調査を行う。特に、ミュンヘン大学では、共通課題をもつヴェンツ教授と有意義な対話の時が与えられる
- (2) スイスのジュネーブでは、長年、信仰職制委員として関わってきた世界教会協議会(WCC)の資料編纂室と近郊のエキュメニカル研究所を訪問し、資料調査を行う。WCCの担当幹事の方々や研究所のスタッフの方々と多彩な対話の時が与えられ、最新の各領域におけるエキュメニカルな課題についても意見交換の機会が与えられた。
- (3) 宗教改革500周年を間近に控え、今回は特にカトリック改革について研究を深めたいと、歴史に大きく刻まれたトリエント公会議が開催されたイタリア北部のトレントを訪れ、公会議開催の教会や博物館で調査を行う。
- (4) 宗教改革期のもう一つのカトリック改革は、イエズス会による海外宣教であったが、特にザビエルの足跡を中心として調査する。ザビエルが誕生して育ったスペインのバスク地方にあるザビエル城、ローマ法王にイエズス会認可を願い出たバチカン、司祭として

の叙任を受けたヴェネチアのサン・マルコ教会、初ミサをあげたヴィチエンツァ、そして東洋宣教へと旅立ったポルトガルのリスボン等を訪れ、調査研究を行う。

以上のような調査研究によって、次のような研究成果の公表を考えている。

- (1) 新年度の神学部始業講演において、「宗教改革500周年のエキュメニカルな意義」と題して研究成果を公にする。
- (2) 『和解と一致への道—エキュメニカルな軌跡と課題』（キリスト新聞社 2016年10月刊行予定）を単著として刊行の予定である。このような包括的なエキュメニカル運動の歴史と課題についての著書は、日本において初めての試みであり、海外においてもそれほど刊行されているわけではない。著書の構成としては、第一部においてエキュメニカル運動の歴史的展開を詳細に扱い、第二部においては世界のエキュメニカル運動の複雑な構造について叙述する。さらに第三部においてはエキュメニカル運動の多様でダイナミックな課題について描写する。

なお、この特別研究期間において、学院の創立者W. R. ランバス博士の宣教活動に関連した著書を二冊刊行した。

- (1) 草創期のエキュメニカル運動におけるW. R. ランバスの宣教活動の位置づけと評価を試みた研究を含む著書『W. R. ランバスの使命と関西学院の鉉脈』（関西学院大学出版会 2015年9月）を刊行した。
- (2) W. R. ランバス著『医療宣教—二重の課題』（堀忠訳、関西学院大学出版会 2016年3月）を山内一郎名誉教授と共同監修して刊行した。

以 上